

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Multi-level analysis of causal attribution of injury to alcohol and modifying effects: Data from two international emergency room projects. アルコールあるいは飲酒が修飾要因として、外傷に与える影響についての種々の要因を考慮した分析：二つの国際共同研究からの救急治療室データ	
執筆者 Cherpitel CJ, Bond J, Ye Y, Borges G, Room R, Poznyak V, Hao W.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Drug and Alcohol Dependence 2006;82: 258-268.	
キーワード アルコール、外傷、原因、救急治療室	
要 旨 飲酒と外傷についての関連性は多くの文献において指摘されているが、飲酒が原因として関与しているか、あるいは修飾因子として関与しているかは、よくわかっていない。そこで、飲酒が外傷に原因として関与しているか否かを、飲酒様態を含む種々の社会文化要因も考慮に入れて検討した。 対象は、二つの国際共同研究として実施されたものを集めた。データは、15カ国、24研究、35の救急治療室に運ばれてきた1955名の患者であり、事故前の飲酒状況について聞き取り調査を実施した。 外傷患者の約半数は、事故前の飲酒が原因として関与していた。しかし、研究によりその関与度は異なっていた。年齢、性を調整した解析で、飲酒量と酩酊感が外傷事故に原因として関与し、これは24の全ての研究に共通していた。毎日飲む人では、少量の飲酒は事故に関与せず、たまに飲む人の多量飲酒が事故に関与していた。酩酊感の強いことや多量飲酒が外傷事故に原因として関与していた。この結果は、救急治療室に搬送された患者の事故予防のために、飲酒習慣を変えようと思っている患者に対しては、今後の飲酒に対するあり方の教育として生かすことができると考えられる。	